

安心・安全なまちづくりをめざします

菰野町議会

民政クラブ会報

24号

少子・高齢化

経済低迷

財政赤字

今、私たちの最大の関心は、老後の所得保障の柱となっている公的年金で、保険料を払わない人が40%を超えているのが現状です。これにより「年金制度の空洞化」が広がりを見せています。これは、私たちの保険料負担が重くなる一方で、老後に受け取る年金額が減るのではないかと、不信感が、若い世代や自営業者などを中心にひろがっているのではないのでしょうか。

国と地方の関係に大きな影響を及ぼす三位一体改革に象徴する財政構造改革、さらに年金、保険、税など日常生活に身近な改革など、立て続けに行われようとしています。しかし、その結果、すべての国民が痛みを感じ、高齢者、子どもなど社会的弱者にまで大きな負担を被ることになります。

菰野町においても、財政厳しい状況の中、今回国民健康保険税・保育園での延長保育料の一部が値上げされますが、町民要望の多い図書館建設、朝上小体育館建設、葬祭会館増設など多くの課題を抱えています。私たちは残された任期を、より多くの皆さんの声を町政に反映するために、議会活動をしてまいります。今後とも、皆様の「ご指導、ご支援をお願い申し上げます」。

平成十六年度

当初予算総額225億円、

一般会計108億円

菰野町の財政は厳しい状況にあります。住民一人当たりに使われる額は、年間27万7231円になります。実質ベースでは1・5%の増になります。生徒数の増加に合わせて、竹永小学校の改築工事・図書館等生涯学習施設建設の土地取得費用が大きなものです。

国の三位一体の改革・地方分権が進む中、自立都市として維持発展するために、これまで以上に行政改革を進めなければいけないと考えます。限られた財源を、より有効に活用し、費用対効果が十分得られるか、議会人として厳しいチェックをしていきます。

議員の報酬及び費用弁償等に

関する条例の一部を改正する条例

二重取りではないかとの疑問があった議員の費用弁償を、議員提案で全会一致で可決「年間約700万円」の削減になります。

鵜川原小学校にエレベーター設置

障害児対策として、初のエレベーター設置工事が予算化されました。つづいて中学校にも設置する予定です。

児童福祉対策事業

児童虐待の早期発見と、関係機関や、地域との連携を図るための協議会の設立、乳幼児とその保護者に対して、本に親しむ環境をつくります。

斎場・葬祭会館整備工事

斎場・葬祭会館場内の駐車スペースを確保するため、駐車場整備を行い、さらに、葬祭会館増設に結び付けていく予定です。

菰野中学校南校舎

耐震補強工事が始まります。

東海、東南海地震が予想される中、菰野町も災害指定区域に認定され、公共施設の耐震工事が進んでいきます。



コミュニティバス出発式

三重交通の路線バス廃止に伴い4月1日から菰野町が独自に、運行を開始しました。通学・通勤の手段が確保されました。

街づくりの為、民政クラブは一致団結して議会活動を行ないます。

町民の負託を受けてがんばる会派



矢田 富男（菰野町監査委員）会派代表

財政厳しい状況の中、今、私たちに求められているのは町民の皆さんと共にこの菰野町を共有し、街づくりを進めることだと考えます。「具体策」に自信があります。時代は変わっても、変わらず住民サービスの向上に努めます。



佐藤 孝幸（竹永小学校建設調査特別委員長・コミュニティバス運行調査特別委員長）

私たち議員に与えられた使命は、住民の皆さんの声を代弁して、町政に反映することにあると思います。町政についてのご意見をお寄せ下さい。財政厳しい中ではありますが、皆さんとの対話を大切にして、あたたかさを感じられる町づくりをめざして頑張ります。



伊藤 泰範（図書館等施設建設調査特別委員会委員長）

鈴鹿の山々を背に、この素晴らしい郷土で、希望に満ちて、生きがいをもって、安全・安心して暮らせる社会を目指します。特に、高齢者の方や障害者の皆さんに、喜んで頂けるまちづくりと、更なる福祉サービスの向上をめざして努力いたします。



内田 親根（図書館等施設建設調査特別委員会委員）

今回は、一般質問で1、福祉関係について 地域での高齢者福祉の取り組みについて。2、地域支援のあり方として 菰野町が総合的な安全と安心の基準または指針を策定すべきではないか。以上二つの項目を質問いたしました。



黒田 勝（産業建設委員会委員長）

菰野町の安心、安全なまちづくりをめざしています。現状では財政厳しい状況のなかですが、町民の要望の多い、公共施設や耐震対策など、多くの課題を抱えています。皆様のお声を反映するために気を引き締めて、町民の方々と共に諸問題に取り組んでいきます。



中山 文夫（三重郡老人福祉組合議会監査委員）

こどもの環境を守ることを目指し、努力してきましたが、社会の流れは、全く逆行しているように思われます。「こどもは全部が未来だ！」という言葉信じて、親として、地域の大人として、そして議員として、町民の皆様と共に、こども達の環境づくりに邁進します。



服部 勲（議会運営委員会委員）

自立する自治体として住民本位の行政を進めることに勤め、財政厳しい状況中、自主財源を求める対策が必要ではないかと考えます。そこで私は、観光のまち菰野・福祉のまち菰野の実現が必要ではないかと考えます。



諸岡 文人（下水道特別委員会委員長）

虐待やいじめは絶対あってはいけません。児童虐待が児童の心身の成長及び人格の形成に重大な影響を与えることにかんがみ、虐待の禁止、虐待防止に関する法律が施行されています。学校や地域が一体となり子供たちの健やかな成長を願い議員活動をしてまいります。



渡辺 昇（菰野町議会議長）

議会議長として4年目を向かえ、中立公正な立場で議会運営をしてまいります。菰野町単独自治体として、町民の皆さんの負託に答え、議会議員として、私はどんな立場でも是は是、非は非をモットーに活動をしてまいります。